

武汉大学留学報告書



福島県立医科大学医学部 4年

五十嵐盛滉

【はじめに】

私は4月3日～5月17日の日程で福島県立医科大学の交換留学生として、中国の武漢大学に留学させていただきました。この45日間は日本で過ごしては得られなかった多くの経験をする良い機会となりました。私はこの留学を通して他国の人たちとの交流、中国の医療事情や医学教育について学びに行きました。この報告書が留学を考えている皆さまの参考になれば幸いです。

【武漢について】

武漢市は中国中部にある湖北省の省都で、長江と漢江の合流地点にある商業都市です。東湖をはじめとする数多くの湖や公園があります。その他にも長江を渡るフェリーや戦国時代の文化財が収蔵されている湖北省博物館、中国の『江南三大名楼』のひとつである黄鹤楼があり観光業も盛んです。

【武漢大学について】

武漢大学は武漢市武昌区に位置する総合大学で学生数約70000人、職員数約3700人の国立大学です。中国で最も歴史がある国家重点大学のひとつです。キャンパスはメインキャンパスと医学部キャンパスがあり、2つは湖を隔てて分かれています。メインキャンパスはとても広くキャンパス内には食堂や運動場が複数個あり、歩いて移動するのはとても大変なのでバスが走っています。学生寮がいくつもあり、留学生用の寮と中国人学生用の寮は別でした。また、キャンパス内には美術館や付属幼稚園や小学校、スーパーやコンビニなどがあり、学生以外の一般の人も住んでいてとても賑やかでした。留学を盛んに行っていることもあり、大学内を歩いていると様々な国籍の人がいました。医学部以外の学部は韓国人の留学生が多く、医学部の留学生はインド人がほとんどでした。医学部キャンパスでは見かけませんでしたが、メインキャンパスには日本人留学生も40人ほどいるそうです。

武漢大学内の有名な寮



【生活について】

・環境

中国の空気は日本と比べると汚いです。たまにかなり臭うことがあり、最後まで慣れませんでした。はじめは毎日マスクが必要だと思ったのですが、2,3日後にはしなくなりました。道路は毎日清掃をしている人がいるのですが唾を吐く人が多く、きれいとは言えませんでした。ただ、ゴミ箱があちこちに設置されていたのでごみはあまり落ちていませんでした。

・交通状況

中国の交通マナーはかなり悪いです。クラクションは鳴らしてなんぼみたいなところがありますし、歩行者がいても平気で突っ込んできます。車間距離が近く、車線変更の際もウィンカーをあげる車はほとんどなく事故が起きないのが不思議なくらいでした。また歩道を自転車や原付バイクが結構なスピードで走るので気を付けながら歩かないといけませんでした。

離れた所への移動は主にバスか地下鉄を利用しました。これらは日本の Suica の様なカードを使い、バスなら1乗車2元弱(約40円)、地下鉄は2~4元(約80円)で利用出来たのでとても便利でした。時刻表はありませんが、だいたい10~15分に1本の間隔で来たので地元の学生も利用していました。



・部屋 私たちは留学生用の学生寮に泊っていました。先輩たちからは2~3人部屋と言われていましたが1人部屋でした。3人で同じ部屋だと思っていたのでシャンプーなどを1つしか持ってきていなく、中国で空のボトルを買わなければいけませんでした。部屋には机とタンスとベッドがあるだけでしたが生活をするうえで問題はありませんでした。各部屋にエアコンが付いていたのですが、担当の人に頼まないリモコンを貰えなくて数日はエアコンなしで過ごさなければいけなくとても寒かったです。エアコンが使えるようになってからはとても快適でした。水道が止まったりすることは無く、あまり部屋に不満はありませんでしたがトイレとシャワーを浴びる場所がすぐ隣で慣れるまでは大変でした。中国人の友人に聞くと私たちが泊まっていた留学生用の寮は他の寮と比べるとかなり良らしく、中国人用の寮は8人部屋でトイレやシャワーが1つずつしかなく毎回混雑し、シャワーは最初の人がお湯を使いすぎると後半の人が水しか出ないということがあるそうです。そういうことを考えると留学生の待遇はとても良かったです。



・食事

医学部キャンパスだけでも食堂が2つとコンビニが1つあったので、食事は主に大学内で済ませました。食堂は数十種類の中から自分の好きなものを選ぶ形式で、値段も10~15元程とかなりリーズナブルでした。日本で馴染みのあるものを選んで食べていたので美味しかったのですが、中国のものは基本的に油っこくはじめての2,3週間はよくお腹を壊しました。食堂はstudent cardにお金を振り込んでカードをタッチしてお金を支払うというシステムでした。student cardは留学生には渡されなかったのが最初は中国人にご馳走になるか、コンビニしか使えませんでした。講座の先生にカードを貸してもらおうようお願いをしてやっと自分たちだけで学食が使えるようになりました。

たまに中国人にレストランに連れて行ってもらい、中華料理や武漢の伝統的な料理を食べました。私は辛いものが好きだったのですが、中国の辛さは日本の比ではないほど辛か

ったです。また、中国人の食べる量は多く、女性でも日本の男性くらい食べていたので驚きました。

大学から徒歩 15 分の所に漢街という繁華街があり、そこには洋食や日本料理のお店が数多くあったので学食に飽きた時や日本食が恋しくなった時などはよく利用しました。日本で食べるのとは少し違いがありましたが、基本的に美味しかったです。レストランに限ったことではないのですが、中国の店のほとんどは英語が通じずひたすら中国語で話しかけてきます。中国で日本食はとても人気で並ばなければいけなく、自分の番号が呼ばれたかどうか分らなかったので入店までが大変でした。



・言葉

中国の学生や教員の英語の力は日本よりも高く、出会った人達は皆ペラペラでした。私たちは普段留学生クラスで過ごしていたので一緒に授業を受けていたインド人と話す機会が多々あったのですが、インド人の英語は凄く独特で聞き取るのがとても大変で何度も聞き返してしまいました。同じ英語なのにこんなにも違うのかと驚きました。中国人教師曰く 3 カ月くらい経つと慣れるらしいです。

上記したように中国の店ではほとんど英語は通じませんが、皆親身になって理解しようとしてくれるので翻訳機やジェスチャーなどを使って最終的には 1 人で買い物もできるようになりました。また、コンビニなどでよく使う中国語は少し覚えたので中国語を使って買い物もできました。

【交流について】

中国に到着してから日本に帰るまでの 45 日間中国の皆さんには本当に至れり尽くせりでした。すべては紹介しきれないので特にお世話になった方々に絞って紹介したいと思います。

武漢空港に着くと、高さんと Leng さんという 2 人の中国人が迎えに来てくれました。2 人には授業や研究の合間を使って事務的な手続きの仲介をしていただきました。また、Leng さんとは何度か一緒に昼食を食べたり、Leng さんの知り合いの日本人のすずかさんと一緒に飲みに行ったりしました。私たちと Leng さんは英語で、すずかさんとは日本語で、Leng さんとすずかさんは中国語で会話をしている、なかなか経験できないことだったので面白かったです。また、Leng さんは大学院生で卒業論文が忙しく、あまり会うことが出来なかったのですが時間を見つけて日常的な中国語を教えてくださいました。



また、高さんは第二言語として日本語を勉強していたのでほとんど日本語で会話することが出来ました。ほぼ毎日英語と中国語しか聞いていなかったのが日本語が通じるだけでとても安心できました。高さんの日本語クラスの友人達とご飯やカラオケにも行きました。彼女たちは日本の歌手やドラマが好きで授業に加えてそれらで勉強をしているそうです。実際カラオケでも日本の曲を日本語で歌っていたので驚きました。また、武漢大学が主催する日本知識コンテストという大会にも一緒に参加しました。日本を外の国から考えることは滅多にないことだったので面白かったです。日本人だから簡単にできるだろうと高を括っていたのですが、かなりマニアックな問題も多くて正直かなり難しかったです。予選はなんとか勝ち進むことが出来たのですが、決勝の日程が急遽変更して帰国後になってしまったので参加出来なかったのが残念でした。後日聞いた話によると優秀賞だったそうです。

高さん達にとっても私たちと話すのは日本語の勉強になっていたのによくお世話になっていました。たまに日本人はほとんど使わないような言葉も使っていたので会話をするのも楽しかったです。また、高さん達の日本語クラスの論文の添削もしました。日本語の「てにをは」の使い方が難しいと言っていたので説明をするために自分で調べてみて、普段何気なく使っている日本語の使い方を考えることは新鮮でした。



また、昨年福島県立医科大学に留学に来た Susan さんや方燕さん達にも武漢市内観光や中国の伝統料理を食べに連れて行ってもらいました。ザリガニなど日本では見たことの無い食べ物があったので少し躊躇いましたがせっかくなので食べてみると、意外とおいしいものばかりでした。白酒という中国伝統のお酒も飲んだのですがアルコール度数が高く、あまり好きではありませんでした。



また、私たちが受けていた Basic Chinese の Li 先生には凄くお世話になりました。Basic Chinese の授業は週に 1 度しかなかったのですが、Li 先生の趣味のクラシックコンサートに毎週のように連れて行ってもらいました。今までほとんどクラシックを聴いたこ

とが無かったのでいい経験になりました。クラシックコンサート以外にも何度もご飯に連れて行ってもらいました。Li先生の旦那さんは日本人で息子さんと3人で会津若松に住んでいるそうなので日本に帰ってからも機会があったら会いたいです。

クラシックコンサート



Li先生とカフェ



他にも中国人のボボやボブ、たくさんのインド人にもほんとお世話になりました。私たちが関わった中国人はみんな英語が堪能で、「困ったことがあったら気軽に連絡して」と言ってくれてとても親切にしてくれました。また、日本語で会話していると中国人や他の留学生が「こんにちは」と話しかけてきて様々な国の人と話す機会があって楽しかったです。武漢の人たちはいろんなところに連れて行ってくれたり、食事に誘ってくれたり、日本に帰るときにはお土産までくれて本当に感謝しきれません。

インド人学生とご飯



【武漢大学での授業について】

私は免疫学講座に配属されました。免疫学の授業は45分授業が週に2コマで、授業の内容も日本で受けていたのと似たことをしていたので良い復習になりました。先生は中国人ですが留学生クラスの授業を受けていたので授業はすべて英語で行われていました。免疫学ということもあり、T cell、B cell、IgEなどの単語を頼りにどんな説明をしているのか理解することが出来ました。授業は分野ごとに異なる先生が講義を行っていました。私たちが参加した授業では、免疫寛容やIgEとI型アレルギーの関係などを講義していました。留学生クラスは90%以上がインド人でした。インド人の授業態度はあまり良いものではなく、授業開始時間に私を含めて5、6人しかいないということも度々あり、授業中も聞いている人は極少数で他の人たちは携帯をいじったり喋ったりしていてよく先生に怒られていました。先生方もインド人の授業態度の悪さには頭を抱えているようでした。

先生のご厚意で中国人学生用の授業にも出ささせていただきました。授業の進め方は日本と同じようでしたが、中国語で行われていたため何を言っているのかは全く分かりませんでした。中国人学生はインド人学生とは違い私語や居眠りをしている人はおらず、とてもまじめに受けていました。私たち以上に真面目に取り組んでいて見習わなければいけないと思いました。



免疫学だけでは時間を持て余してしまうので一緒に行った2人の配属講座の病理学と解剖学の授業も受けさせていただきました。解剖学の授業では実際にインド人の解剖班に混ぜてもらい、実習をしました。留学生の解剖実習では生徒約30人に対して献体が3体しかなく、実習を行う人は4人くらいで残りの人は傍観するだけとなり、あまり効率の良い実習とは言えない印象でした。実習中もすべて英語の名称だったのでついていくのがやっとで、神経や動静脈の説明をするときには毎回参考書を見なければいけませんでした。自分の英語力の無さを実感し、医学用語を英語でも使えるようにならなければいけないと思いました。解剖学の授業は日本と同様に、実習前に1時間くらいの講義を行っていました

が、実習時間は2時間くらいと日本と比べてかなり短時間の実習でした。講義の時間には、身体構造だけでなく臨床的にどうしてその構造が重要かなども説明していました。例えば、腹腔内の静脈の走行について詳しく説明し、肝硬変で門脈圧が亢進すると、門脈の上流の血管への血流量が増加して食道静脈瘤の形成や、脾腫、メデューサの頭が形成されることなどを教えていました。臨床の講義を一通り終えてからの実習だったので疾患と結びつけながらの学習はとてもよい復習となり、また、単なる暗記だった知識に対して理解を深めるよい機会となりました。

また、医学の勉強以外にもせっかく中国に来たのだからと思い、留学生向けの中国語の授業も受けさせてもらえるようお願いしました。中国語の授業は **medical Chinese** と **basic Chinese** の2つがあり、両方受けさせていただきました。正直なところ **medical Chinese** はおろか **basic Chinese** も1年以上勉強している学生に対する授業だったらしく何を言っているのかさっぱりわかりませんでした。しかし実用的な言葉を教えてもらい、店や食堂で試してみるのには良い経験になりました。



【中南病院について】

私たちは、講座の先生にお願いして中南病院にて心臓血管外科の大動脈解離のステント留置術を見学させていただきました。日本で実習をしたことがなかったので日本と中国の違いはあまり分かりませんでした。科によって異なるとは言っていましたが中国人医師は1日に3~5件ほどの手術を行うそうで、夜中にスタートする手術もあると言っていました。日本の手術の現場とおそらく異なることとして、中国人医師は手術室内に携帯を持ち込み、手袋を着けたままモニターなどをいじっていました。また、ピアスをしている医師や看護師も数人見受けられ、国によって医療従事者の身だしなみも異なるのだと思いました。

手術見学以外にも、心臓血管外科の病棟を見学させていただきました。中国の病院は患者に対する病室が足りていなくて廊下にまで入院患者がいました。

日本では考えられないような医療状況が目の前に広がっていて、日本はとても衛生環境や患者の QOL についてよく考えて環境整備が行われているのだと思いました。

【考察】

日本と中国でなぜこんなにも違いがあるのかを考えてみたところ、日本では患者の利益を第一に考えて施設や環境の整備が行われているのだと思いました。一方、中国は身だしなみが自由なように患者がどのように感じるのかというよりも医師側の効率や利便性を優先しているのだと思いました。万が一日本で入院患者が廊下に寝ていたら、患者や患者の家族に怒られたり最悪の場合訴えられたりしてしまう可能性があると思います。中国でそれが無いのは、医者ファーストの風潮が未だに存在しているからだと考えます。昔の日本も今の中国と同様に医者ファーストでしたが、現在は診察の時に言葉の選択や態度に気を付けるように医学生のうちから教わり、患者ファーストになってきているように感じます。そのため、今後中国も今の日本のように病院の環境や医師のあり方などが変化してくると思います。

【まとめ】

武漢に滞在した 45 日間はあっという間で本当に充実した期間でした。今までほとんど知ることも関わることもなかった外国の文化や生活を体験して、日本との違いに驚きながらもとても良い経験が出来ました。日本人はテレビや新聞などのメディアの影響もあって中国人に対してあまり良い印象を持っていない人が多いと思います。事実私も日本人だからなめられたり良く思われなかったりするのではないかと少し思っていました。しかし、実際は全くそんなことはなく、想像の何倍も親切な人が多く、日本にとっても関心を持っている人がたくさんいました。今となっては中国のことをほとんど知らないのに悪い印象を抱いていたのが恥ずかしいです。この留学を通して、普段とは全く異なる環境で生活をして、国際的な視野を持つことが大切だと思いました。また、今後様々な国の人と関わる上で英語がとても大切だと思いました。これからもずっと英語の勉強は欠かさず行おうと思います。今回の留学は本当にたくさんの人にお世話になりました。留学で出会った人々とまたどこかで会うためにも今後も医学と英語を勉強し、次は互いに医師として会いたいと思います。

最後になりましたが、和栗先生や國分さんをはじめ留学をサポートしてくれたたくさんの方々に深くお礼を申し上げます。貴重な機会を与えてくださり本当にありがとうございました。